



①森の里東に建設した約5千平方mの工場②鉄筋を切断する今村さん③同僚や実習生と昼食をとる今村さん(中央)④手入れされた工具⑤鉄筋の曲げ加工⑥1m単位で鉄筋を切断する精密切断機⑦加工長と打ち合わせをする森工場長(左)⑧10mまで吊り上げられるクレーン⑨3mの鉄筋を台に乗せる今村さん⑩完成した鉄筋の製品。さまざまな型がある

工場では1日に約200トンの鉄筋を扱っています。移転を考える上では、作業を効率よく安全に進められるス

移転先に選んだ厚木
山際も「以前より安全に作業でき、効率も上がった。自分たちの意見も取り入れてもらえて働きやすい造りに

25年間勤務する今村勇一さん(48)・山際も「以前より安全に作業でき、効率も上がった。自分たちの意見も取り入れてもらえて働きやすい造りに

決まった作業でも、常に緊張感があります。「長く働いていると、機械で

なっただ」と話します。今村さんが担当している業務は、100本を超える鉄筋の切断。量が多いため、正確に加工

正確で安全な作業を
決まった作業でも、常に緊張感があります。「長く働いていると、機械で

なっただ」と話します。今村さんが担当している業務は、100本を超える鉄筋の切断。量が多いため、正確に加工

決まった作業でも、常に緊張感があります。「長く働いていると、機械で

なっただ」と話します。今村さんが担当している業務は、100本を超える鉄筋の切断。量が多いため、正確に加工

決まった作業でも、常に緊張感があります。「長く働いていると、機械で

なっただ」と話します。今村さんが担当している業務は、100本を超える鉄筋の切断。量が多いため、正確に加工

決まった作業でも、常に緊張感があります。「長く働いていると、機械で

なっただ」と話します。今村さんが担当している業務は、100本を超える鉄筋の切断。量が多いため、正確に加工

特集 厚木の産業

まちを支える企業の力

市内には5000を超える企業があり、活発な企業活動はまちづくりの土台を支えています。さらなるまちの発展のため市では企業誘致に力を入れています。特集では、市の企業誘致制度を使って工場を新設したり市内に移ってきたりした企業を紹介します。

2005年以降に誘致した企業数と件数
(企業誘致条例の適用企業)

新設	26件	増設	53件	移設	15件
合計	71社94件				
総投下資本額(立地企業が市に投資した額)	1677億円				

◎産業振興課 ☎251-2832

企業への支援

企業の設備投資や研究開発、雇用などに補助金を交付しています。

要件や他の支援など詳細は市HPへ

- ◆中小企業カーボンニュートラル推進事業補助金
電気自動車の購入や専用の充電器など、省エネルギー機器の設置費用の一部を補助。
- ◆中小企業設備投資促進事業補助金
生産の拡大のため、機械や装置などの設備を導入する費用の一部を、200万円を上限に補助。
- ◆IT・IoT導入補助金
ロボットやIT(情報技術)、IoT(ネット接続できる製品)、AI(人工知能)などの先端技術を導入する費用の一部を補助。



企業誘致がまちの力に

厚木には企業が多く立地し、業種の偏りが少ないことが特徴です。近年は、森の里東や酒井などの土地画整理にも力を入れています。製造業などを受け入れられる広い場所を用意できれば、たくさんの雇用を生む大きな企業を誘致できます。企業が育つと雇用が生まれ、住む人が増え、商業施設も増えていくので、企業立地はまちが活気づく起点になります。厚木はまだまだ発展の余地のあるまちです。企業を呼ぶためには子育て環境を整えたり交通利便性を向上させたりと、住みよいまちをつくることも大切です。まちづくりの政策と企業誘致は密接につながっているのです。

市産業振興推進委員・NPOあつぎみらい21理事長
中小企業診断士
小泉 誠二さん

「これを入れたらこうなるかも、とイメージして、ならなかったら原因を突き詰める。小さい頃から理料が好きで、実験も好きだった」と話す川端さん。昨年1月に化粧品開発の会社から転職し、100種類以上ある原料の特徴を理解するため、原料メーカーのセミナーに参加したり資料を読んだり

工場では、マンシオンなどの住宅に使われる吹き付け断熱材の他、自動販売機や冷凍庫、工場などの断熱材にも使われる硬質ウレタンの原液などを製造しています。川端さんが担当しているのは原料の配合などの研究。実験室で原料の種類や分量を考えて混ぜ、発泡させたものを測定器にかけて性質を細かく調べます。断熱効果やつぶれにくさ、含まれる空気量の量などの数値を記録し、分析し、より良い製品にするために試行錯誤を繰り返します。

積水ソフランウイズ株式会社
ウレタン原液製造

原料を混ぜ合わせウレタンの原液を作る工場

ウレタン内部の独立した気泡の割合を調べる測定器

製品の入ったドラム缶

立地への支援

《2021年に支援拡大》
工場や研究所を新・増設する企業に、税負担の軽減や奨励金を交付し、企業の進出や事業の拡大を支援しています。21年から、対象区域の拡大や業種の追加など支援策を拡大しました。

新製品の完成を目指して

「これを入れたらこうなるかも、とイメージして、ならなかったら原因を突き詰める。小さい頃から理料が好きで、実験も好きだった」と話す川端さん。昨年1月に化粧品開発の会社から転職し、100種類以上ある原料の特徴を理解するため、原料メーカーのセミナーに参加したり資料を読んだり

工場では、マンシオンなどの住宅に使われる吹き付け断熱材の他、自動販売機や冷凍庫、工場などの断熱材にも使われる硬質ウレタンの原液などを製造しています。川端さんが担当しているのは原料の配合などの研究。実験室で原料の種類や分量を考えて混ぜ、発泡させたものを測定器にかけて性質を細かく調べます。断熱効果やつぶれにくさ、含まれる空気量の量などの数値を記録し、分析し、より良い製品にするために試行錯誤を繰り返します。

今、川端さんが取り組んでいるのは新製品の開発。従来品の改良などとは違い、すぐに完成にたどり着けるものではない。共に完成にたどり着けるもの

工場では、マンシオンなどの住宅に使われる吹き付け断熱材の他、自動販売機や冷凍庫、工場などの断熱材にも使われる硬質ウレタンの原液などを製造しています。川端さんが担当しているのは原料の配合などの研究。実験室で原料の種類や分量を考えて混ぜ、発泡させたものを測定器にかけて性質を細かく調べます。断熱効果やつぶれにくさ、含まれる空気量の量などの数値を記録し、分析し、より良い製品にするために試行錯誤を繰り返します。

工場では、マンシオンなどの住宅に使われる吹き付け断熱材の他、自動販売機や冷凍庫、工場などの断熱材にも使われる硬質ウレタンの原液などを製造しています。川端さんが担当しているのは原料の配合などの研究。実験室で原料の種類や分量を考えて混ぜ、発泡させたものを測定器にかけて性質を細かく調べます。断熱効果やつぶれにくさ、含まれる空気量の量などの数値を記録し、分析し、より良い製品にするために試行錯誤を繰り返します。